

中国・四国の徐福伝承

池上正治

はじめに 1000年単位でもの事を考えたり、調べたりする場合、注意しなければならないことがある。その1つが、今は、という意識であろう。徐福らが活きた時代は、2000年以上も昔である。今、われらが交通路としているものは、当時なかったし、海面は今よりずっと高かったとされる。だとしたら、当時と今では、地形はまるで異なったものになるはずだ。瀬戸内の海は、歴史的に、今でいう九州と関西とむすぶ交通の大道だった。

四国における徐福の伝承

高知県（高岡郡）佐川町 四国で唯一の徐福伝承 顕彰碑を探し当てるまで

徐福の一行は暴風雨にあい、土佐の宇佐に漂着して、虚空蔵山に登ったという。
山頂で鉾をかざして故国を偲び、柴を折って一夜の夢を結んだが、仙人には会えず、
むなしく帰国したという —1990年 佐川町

福岡市（東区）名島神社 補足（9月17日）の補足

神職・原田光雄さんによれば、徐福らは、いまの博多湾から上陸し、いまの名島城跡公園の一带、そこには名島神社の境内も含まれるが、イメージとすれば龍宮城のような、壮麗な宮殿を構築し、長らくそこに留まったが、長い歴史をへた現在、いわゆる物証は残されていない、という。

いけがみ・しょうじ 1946年生（新潟県）東京外国語大学中国科卒業 作家・翻訳家 s_ikgmi@ybb.ne.jp
編著に、『謎の道士 — 徐福』（1975）『徐福 — アジア 2000年の青い鳥』（2003）、『徐福』（2007）など。
訳書に、『徐福と始皇帝』（1997）『徐福 霧のかなたへ』（2000）など。 著編訳書の総計60余冊。

中国地方における徐福の伝承

山口県（上関 かみのせき 町）祝島 瀬戸内海の関門 万葉の時代から要衝

柳井から連絡船で 地元の名士・重村定夫さんによる「不老長寿」コッコー漬、
遺跡や岩絵などあるが、徐福遺跡として、いわゆる「公認」には至らない。
徐福マラソンは島の内外から、好感をもって迎えられている。

土井ヶ浜（下関市豊北町） 弥生時代初期～中期の墓地遺跡であり、その土壌の特殊性から
当時の状態をいまに伝えるとされ、被葬者たちは大陸の方向を向く。徐福の時代とは
至近関係にあり、往時の状況を知ることが可能。人類学ミュージアム。

岡山県（倉敷市浅原）安養寺 市街の北 福山の南麓 真言宗の古刹（山号・浅原山）

浅原の真堂 — 無為なる神を祭るところを、真堂という

台 北 ……盧生（ろせい）

福 山 ……徐福

咸 陽 ……始皇帝

チチハル ……侯生（こうせい）

これら四方に位置する4つの真堂が設けられ・・・「これまた徐福尊師なり」

おわりに 九州に比べて、四国や中国地方の徐福伝承は、目下、あまり多くない。とても少ない、
と言いきださる。その理由として、この地域は歴史的には、西から東へ、東から西へと、人や
物資、文化などが流れていく場所だった。新しい波がくると、それ以前の古いものはどうしても
その下になってしまう。その結果、消えてしまうこともあり、地下水のように見えない存在とな
ることもあろう。福岡の名島神社、山口の祝島、高知の佐川、岡山の安養寺、それらの徐福伝承
は地下に「暗流」のあることを示唆しているように思われる。

【ご参考】 京都・伊根にある浦島神社

記念事業奉賛

田島・池上

2014年11月19日 横浜・神奈川県民センター